

会 議 録

第 5 回定例会

開会 令和 8 年 6 月 5 日

教育委員会会議録

1 開 会 令和8年6月5日 午前10時

2 閉 会 令和8年6月5日 午前11時14分

3 教育委員会出席者

教育長	中川 斉史
委 員	島 隆寛
委 員	横田 賢二
委 員	糸井 恵理
委 員	武田 國宏
委 員	横田 恵理子

4 教育長及び委員以外の出席者

副教育長	高崎 美穂
教育改革統括監	眞相 秀也
教育次長	遠藤 岳哉
教育DX推進課長	秋山 敏二
教育創生課長	青木 秀夫
教職員課長	金岡 由岐子
いじめ・不登校対策課長	福多 博史
体育健康安全課長	國方 正一
教育政策課長	玉岡 あき子
教育政策課副課長	藤川 憲一郎

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[議 事]

教育長 議案第14号、議案第15号、協議事項1及び報告事項2を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《協議事項2 令和9年度徳島県立中学校及び徳島県立中等教育学校入学者選抜の基本方針について》

教育長 説明を求める。

教育創生課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

横田(恵)委員：インターネット出願の導入は非常に良い取組である。一方で、受検生が小学生であり、初めての試みでもあるため、保護者も含めて不安が大きいと予想される。県教委として疑問点や問い合わせにどのように対応し、窓口を整備していくのか。

教育創生課長：例年7月上旬に学校現場向けの説明会を実施しているが、今回は電子申請の導入に伴い、具体的な手続きの流れをシミュレーション形式で盛り込み、周知を図る。また、従前と申請期間が異なるため、保護者や受検生に対しても広報等を通じて周知徹底を図りたい。

横田(恵)委員：本入試は県内全域から受検可能であり、小学生のうちからチャレンジできるため、今後さらに脚光を浴びると思われる。運用面や方針を精査し、発展的に入試が行われるよう進めていただきたい。

島委員：保護者の立場からは受検前の事前情報が重要である。例えば「都会

の私立中高一貫校のように中学段階で高校の先取り学習を過度に行うことはない」といった学校の特徴や、「学習の進度差への対応」「仮に中学校3年修了時に他高校への受検を希望する場合の対応」など、保護者が懸念しそうな事項を「よくある質問」としてあらかじめまとめて情報発信しておく、問い合わせの手間も省け有益だと考える。

教育創生課長：学校ごとに開催される保護者向け説明会などの機会を捉え、いただいたご意見を反映させながら説明・周知に努めたい。

武田委員：インターネット出願の手続きについて確認したい。ネット上で電子入力するのは「志願者情報」のみで、小学校側が作成する「調査書」などの書類は、従来通り紙ベースで別途郵送する2段階の手続きになるという理解で良いか。

教育創生課長：そのとおりである。将来的には現在構築を進めている校務支援システム等との連携による一元化を視野に入れているが、現時点では保護者の入力と、小学校が作成する書類の送付という2段階での運用となる。

武田委員：中高一貫校は基本的に6年間学ぶことを前提としているが、より高いレベルでの学習を求める生徒や、逆についていけなくなった生徒など、様々なケースが想定される。4年生（高校1年相当）進級時に「他高校への進学（外部受検）」は制度上可能なのか。また、その旨を募集要項等に明記する予定はあるか。

教育創生課長：基本方針や要項への積極的な明記を想定はしていない。学校側としては「6年間一貫して学ぶこと」を前提として募集している。しかし、実態として生徒の進路変更や外部受検への希望が生じるケースは皆無ではないため、質問等があった場合には個別に対応するスタンスをとっている。

武田委員：法的に他校受検を縛ることはできず、大都市圏や他県でも中高一貫校からの外部流出・外部受検は実際に起こっている問題である。かなり前に香川県でも中高一貫校において、高校進学時に外部へ抜けてしまうことが問題になった例があったと記憶している。本県でも同様なことが起こり得るために、学習の習熟度が高く発展的な内容を求める生徒や逆にカリキュラムとのミスマッチから学習に課題を抱える生徒など、個々の特性に応じた適切な進路指導やキャリア支援を検討する必要があるのではないか。

横田（賢）委員：毎年議論に上がるが、対象3校のうち川島中学校の定員割れや志願者数の減少傾向について、中長期的にどう対処してい

くのか。人口減少・少子化が進む中、定員の削減や学校配置の適正化（統合等）といった具体的な対策に踏み込まざるを得ないのではないか。

教育創生課長：県立川島中学校に関しては、昨年度は定員 50 名に対し 57 名の受検者があり、学校側の広報活動の成果も見られた。しかし、委員ご指摘の通り中長期的には少子化が急速に進行するため、当該校のみならず、県立中学校全体のあり方や配置について検討していく必要があると認識している。

横田（賢）委員：人口減少は教育委員会にとどまらず徳島県全体における最重要課題である。他県の中高一貫校における先行事例や少子化対策などを注視し、今後の検討に生かしていただきたい。

教育長 協議事項 2 を議案第 17 号として付議してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

教育長 議案第 17 号を原案通り決定してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

教育長 議案第 17 号を原案通り決定する旨を告げる。

《報告事項 1 県教育委員会と徳島 e スポーツ協会との連携協定の締結について》

教育長 報告を求める。

教育DX推進課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

糸井委員：eスポーツというとゲームのイメージが強いが、国境を超えて対戦するような、国際交流も含めた取組はこの連携に含まれるのか。

教育DX推進課長：国際交流と指定はしていないが、そういった活動も含まれてくるかと思う。まずは現在、eスポーツ協会が東新町などで実施している「闘電街」でのイベントやワークショップといったところから連携を始めていこうと考えている。

横田（賢）委員：地元で昨年サブカルフェスティバルが開催され、「太鼓の達人」の競技大会に 300 人ほどの人が参加したと聞いた。障がいのある方や不登校の方がゲームを通じて社会に進出したり、将来的な人間形成において非常に良い経験になったりすると思うため、今回の県教委とeスポーツ協会の連携は非

常に好ましいと考えている。

武田委員：非常に良い取組だと思う。資料に「高校のeスポーツ部活動等の推進支援」と記載されているが、eスポーツ協会は県立高校だけでなく、小学校や中学校にも支援に入っていくという想定なのか。

教育DX推進課長：今回協定を結ぶのは県教委であるが、市町村教委との連携も可能なので、検討していく。

武田委員：教科教育だけでなく、子供が活躍できるフィールドをどんどん広げてほしい。ある教育委員会では、不登校の子供たちがeスポーツを楽しめる居場所づくりを行っている事例がある。小中学校でも導入しデジタルに対する興味関心を広げる入口にしてほしい。

島委員：通常の勉強をおろそかにしないよう、時間制限などの注文をつけるのか。人が銃で撃ち合うような戦争を想起させる内容のゲームもあるが、部活として実施するにあたって、県教委から何かしらのガイドラインや制限を設ける予定はあるか。

教育長：懸念される部分もあるため、以前小学校で実施した際にはゲームを「ぷよぷよ」にした。教育的な配慮は重要な点であるため、ガイドラインなどは考える必要があると思っている。

[非公開]

《議案第14号 徳島県学校職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例について》

《議案第15号 徳島県立学びの多様化学校（仮称）新築工事の請負契約について》

《協議事項1 令和8年度6月補正予算案について》

《報告事項2 部活動の遠征等における車両等の利用状況調査について》

[閉会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉会 午前11時14分